

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷1丁目13番地の15		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2276200207-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2276200207-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	3月	17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

安心で安全な生活が送れるよう職員一丸となり支援するよう心掛けている。職員は入居者や家族と馴染みの関係を築き、大切にし、入居者が安全で安心して暮らせるように支援している。ご近所での買い物、散歩時ご近所との挨拶、日々の会話を通じ、地域との交流の場を増やし入居者が地域の一員として生活出来るように支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は理念の「安心で安全な生活を送りあきのこない暮らし」が出来るような支援に取り組んでいる。丁寧語だけでなく、個別に方言を交えて楽しく笑顔になれるような声掛けで、話し易い雰囲気を作り会話が弾んでいる。発語の困難な人で食事を拒否する人に職員は試行錯誤しながら常に状態を観察し、利用者の思いや意向を知る努力を重ね利用者の出来ることを継続できるよう支援をしている。川柳が得意な利用者が日常のケアへの思いや意見を川柳にして伝えていて、意見は会議で話し合い反映させている。布パンツで見守りもなく自立の人が数名いて、立位が保てるよう電動足ふみで筋力をつけて全員がトイレでの排泄をしている。尊厳を保ちながら穏やかにすごせるような支援をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は各自にて理念を唱和して共有している。	法人の理念を継承し、「入居者が地域との交流の下で安心・安全な暮らしを送り、あきのこない暮らしを支援する」が職員に浸透している。一人ひとりの訴えに耳を傾け、その人の思いを掴み、きめ細かな前向きな対応に心がけ、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの時、地域の参加者に対してホームの前で接待を行っている。	自治会に加入し、市の広報などが届いている。事業所の納涼祭に老人会のボランティアなど近所の人が手伝いに来てくれ、顔見知りになった住民と散歩の時に挨拶や会話を交わしている。地元中学生の体験学習の受け入れを年2回行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在行われていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された意見を、参考にサービス向上を目指している。	民生委員・包括職員・毎回ではないが家族や行政の参加があって2ヶ月に1度の定期開催がされている。4月にシニアクラブから11名の参加で利用者と一緒にゲームやカラオケ等の交流を行ったり、家族とのランチ会を会議で行い、施設への意見を聞くようにしている。家族へ議事録の配布はない。	推進会議の意義をふまえ、施設への理解や協力体制作りに繋がる議題の決め方の工夫と家族や地域の住民などの参加を募り、話し合う機会としていかせる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりありませんが、運営推進会議に高齢者支援課の職員に出席をお願いしたり、各月で行われている市のサービス連合会に参加している。	生活保護の受け入れがあり、担当職員との連携をとっている。研修案内は市や包括からはないが、公立病院や介護福祉会・グループホーム連絡会等からあり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明し、理解して頂いている。	車椅子の人が立ち上がりた理由や感情的になる思いを受け止め、行動を抑える言葉を使わないようにしている。夜中にベッドから頻りに降りる人に夜間職員が居室横で、様子を見ながら寄り添う対応をしたことがあったが、家族と相談しセンサーを置くことにした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これから高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち、より一層虐待防止について徹底していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの事を学ぶ機会はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご理解されるまで充分説明を行い、同意書にサイン、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入り口に「意見箱」を設置し、何時でも意見を投函できるようになっている。ご家族の面会時、電話等のご意見を職場会議に反映するようにしている。	川柳に日常の様子を記して伝えてくれる利用者の意見を会議で話し合い、反映させるようにしている。家族にはランチ会や面会時、日頃の様子を伝え意見を聞くようにしている。「歩かせて欲しい」の要望に、天候をみて外出する等、意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で職員の意見や提案を出来る限り反映できるようにしている。	各ユニットから1名ずつ出て7つの委員会があり、外部研修後の伝達研修・イベント計画等役割を持って取り組んでいる。管理者と職員は日常的に話し易い関係で「フロアが汚れている」など話があると1階・2階と利用者のできる人と一緒に継続して取り組むようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入をして、職員のモチベーションが上がるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡会にて交流する機会がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中から困っている事をくみ取り不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や要望に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・家族と話し合い必要としている支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事はご本人にやっていたく。掃除や洗濯物をたたむなど職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に面会に来て頂いたり、また電話などで施設での生活の様子を連絡して共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医院に通院したり、家族、知人の面会や電話での交流が心よく出来る様な雰囲気になっている。	友人や親戚の人などが面会に来ると居室でゆっくり過ごす場合はお茶の接待をし、フロアで一緒に歌を歌って過ごすことなどあり、継続して来てもらえる様声掛けをしている。家族と受診帰りに以前から行っていた飲食店に寄ってることがあり、家族と共に馴染みの床屋に行く人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をたたんだり、食事の片づけをしたり、カラオケ、散歩、ドライブ、昔話をしたり、入居者同士が関わり合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の家族より相談があった時は相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活の中で一人一人の要望を出来る限り実現の方向に努力している。	川柳で思いや意見を伝えてくれる利用者や日常会話の中から思いを聞けることがあるが、困難になっている人の気持ちに添えるよう、観察している。食事を拒否する人に試行錯誤しながら、職員は表情をみて利用者の立場になり考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂き、家族からの話や生活歴を参考に入居者の暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、心身の状態を把握し、本人のペースに合わせた暮らしの支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い、充分話し合い、計画作成・見直しを行っている。	担当職員からの意見を参考にミーティングで職員皆で話し合い、計画に反映させている。日常の行動から見える利用者の意向や家族の要望などを取り入れ計画書を作成して、家族の確認をとっている。計画の変更部分は伝達し職員で周知をさせる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し、その時々々のケアを介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者に目配り、気配りをしその時々 の状態に合わせ、外出したり、カラオケをし たりする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、地域の方との交流、ポラン ティアによる観劇を通じ暮らしに豊かさが反 映できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	入居者が適切な受診が出来る様支援して いる。入居者が主治医を受診の際は職員 が付き添う。又医師と家族が連携を保てる 支援をしている。	かかりつけ医を継続している方が多く、受診 時にバイタルの情報の書面を持参して概ね 1ヶ月から1ヵ月半の間で家族対応で受診を している。どうしても家族が難しい時には、看 護師が受診支援している。結果は口頭で聞 き受診記録に記入している。現在往診を受 けている人はいない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護 を受けられるように支援している	入居者の食事量の把握、薬・アレルギーに よって食べれない物や、水分量に気をつけ ている。健康面で気付いた事を看護師に相 談しアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている	入院時にはかかり付け医院・医療機関・家 族に情報を頂き、また退院時には医療機関 より看護サマリーを依頼して安全に生活で けるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所ですることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組 んでいる	看取りに関する同意書を家族から頂いて いる。詳しい説明をし、家族の意向も聞いて いる。	入居時に重度化・終末期の対応についての 話をし、家族の意向を聞いている。状態が 変わったとき、家族に医師から病状の説明を してもらい医師の方針に沿った対応をするよ うになっている。食事ができても脱水症状で 入院した利用者に延命・医療行為をするか家 族と相談して決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルを作成してい る。急変時・事故発生時は対応マニュアル の手順にて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で防災訓練を年2回実施している。	行政・包括・民生委員が参加した推進会議で地震から火災を想定した訓練を行った。参加者から「利用者を確認する時に写真入りの名簿があるとわかりやすい」と意見があり、写真入りの緊急連絡網を作成した。夜間想定した訓練は行われていない。	いつおきるかわからない災害に、火災・地震・水害などの訓練と夜間を想定した訓練を行い、避難できる方法を身につける取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が行いたい事に対して、否定的な言葉で対応をしないようにしている。	居室で鍵をかけて過ごしたい人のプライバシーを尊重し、趣味ややりたいことへの継続支援をしている。利用者に対して尊敬語を基本としているが、方言を交え笑顔が出て楽しく過ごせるような雰囲気づくりを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「しましよう」などと、こちらから決めつけた言葉使いはせず「どうしましようか」と疑問系にし自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の合ったペースでの生活を優先し強制することなく支援を続けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を着替える時は、職員と一緒に選ぶ。男性には髭そりを自分で行える様声かけする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを工夫している。食事は入居者と職員が雑談しながら一つのテーブルで摂りゆっくり、気分良く食べられるように支援している。	朝・夕食は1週間分の献立を作り、食材を発注してスーパーへとりに行っている。平日の昼食はデイからの配食で手作りおやつも届くことがある。職員は利用者の間に入り会話を楽しみながら同じ食事を楽しんでいる。外食は利用者の楽しみの一つで回転寿司や、ラーメンの日も増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量の把握、薬・アレルギーによって食べれない物や、水分量に気をつけている。健康面で気付いた事を看護師に相談しアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいをを行い就寝前は義歯を洗浄し管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援		利用者全員がトイレでの排泄をしている。車	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけや誘導をして、自立に向けて支援している。	いすの利用者も、トイレ近くから手引き歩行でトイレ誘導し自立にむけた支援を行っている。歩いてトイレに行くために、電動足ふみで訓練し筋力をつけて立位を保てるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動や散歩を心掛けると共に水分補給に注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望・体調に合わせて入浴できるように支援している。	お風呂はかけ流しで2人入ると湯を換えている。車椅子の人は2人介助で対応するなど利用者の状態に合わせた入浴を支援している。お風呂タイムはリラックスして利用者も饒舌になることがあって職員と会話を楽しみながら入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて声かけし、居室で休んで頂いたり、ソファで休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬と説明書の管理をし服薬が確実にできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケで歌を唄ったり、プランターに花を植えたり、川柳を作ったり、一人一人の趣味を活かしたり、月に1・2度の行事に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の様子で散歩、または日光浴をしている。年間行事に基づいて実施している。	近くの公園まで散歩をしたり駐車場で外の気浴をして気分転換を図っている。年間行事にそって初詣や花見・回転寿司などの外食を楽しみ、また、イベント以外でも天気を見てドライブに行くことがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は事務所金庫で預かっており、病院の診察費や必要な買い物を小遣い帳に記入している。本人が買い物をする時は一緒に出かけ支払をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	色々な行事のお便りを家族に送ったり、通院や買い物など入居者の状況を家族に伝えている。希望のある方は入居者自ら電話する。(職員見守りにて)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に掃除をしたり、常に清潔を保つようにしている。外と室内の温度差にも気を配り、花等飾り季節感を出している。	利用者の状態を把握し温度調整や空調に配慮をしている。玄関とホールに職員が家からもってくる生花や季節行事のお雛様が飾られている。生活の場として不必要な掲示はなく落ち着いた雰囲気になっている。フロアの一面の大きめの棚が、必要な物の置き場として便利に使えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや雑誌、音楽ビデオなどを提供し、興味の惹くところは声かけし、より心地良く過ごせるよに対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・カレンダーなど作った物を飾り付け、居室の清掃や温度調節もその都度確認している。	奥行き深い棚に人形や寄せ植えの花・テレビなどが飾られている棚があり、動線に配慮され整然とした居室になっている。居室担当職員と一緒に利用者は清掃を手伝い、衣類の衣替えも職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の様子が視野から離れないように全体を見渡しながらか支援している。施設内の障害物は片づけ、手すりを使い行動出来るよう安全性を考えている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷1丁目13番地の15		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2276200207-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2276200207-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成29年 3月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で安全な生活が送れるよう職員一丸となり支援するよう心掛けています。職員は入居者や家族と馴染みの関係を築き、大切にし、入居者が安全で安心して暮らせるように支援しています。ご近所での買い物、散歩時ご近所との挨拶、日々の会話を通じ、地域との交流の場を増やし入居者が地域の一員として生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は各自にて理念を唱和して共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの時、地域の参加者に対してホームの前で接待を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在行われていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された意見を、参考にサービス向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりありませんが、運営推進会議に高齢者支援課の職員に出席をお願いしたり、各月で行われている市のサービス連合会に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明し、理解して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	これから高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち、より一層虐待防止について徹底していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの事を学ぶ機会はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご理解されるまで充分説明を行い、同意書にサイン、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入り口に「意見箱」を設置し、何時でも意見を投函できるようになっている。ご家族の面会時、電話等のご意見を職場会議に反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で職員の意見や提案を出来る限り反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入をして、職員のモチベーションが上がるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡会にて交流する機会がある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と会話をして、悩みや不安・要望等を聞き安心して生活できるように取り組み、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や要望に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・家族と話し合い必要としている支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事はご本人にやって頂く。掃除や洗濯物をたたむなど職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に面会に来て頂く、また電話などで情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医院に通院したり、家族、知人の面会や電話での交流が心よく出来る様な雰囲気になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カレンダー作り・散歩・カラオケ・ドライブなどのレク活動行い、洗濯物をたたむなど入居者同士が関わりあえるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の家族より相談があった時は相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活の中で一人一人の要望を出来る限り実現の方向に努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂き、家族からの話や生活歴を参考に入居者の暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、心身の状態を把握し、本人のペースに合わせた暮らしの支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い、充分話し合い、計画作成・見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し、その時々ケアを介護計画に活かしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の様子で、ドライブ・散歩・レクリエーション・歌などをする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で楽しく過ごせるように、行事・ボランティアによる観劇を行い、豊かに過ごして頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を伺い適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気付いた事など看護師に伝え、入居者が適切な受診・介護ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはかかりつけ医院・医療機関・家族に情報を頂き、また退院時には医療機関より看護サマリーを依頼して安全に生活できるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ることを説明し家族と話し合い方針に従って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルを作成している。急変時・事故発生時は対応マニュアルの手順にて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で防災訓練を年2回実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導が必要な方を誘導する時「トイレレ…」などと「直接言わないよう工夫をした声かけをしている。入居者に否定的な言葉対応をしないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「しましよう」などと、こちらから決めつけた言葉使いはせず「どうしましようか」と疑問系にし自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の合ったペースでの生活を優先し強制することなく支援を続けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を考え、着易さ、洋服の組み合わせ方など、清潔で気持ちよい状態を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを工夫している。食事は入居者と職員が雑談しながら一つのテーブルで摂りゆったり、気分良く食べられるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が足りない入居者は本人が一番飲めそうな物を工夫している。(紅茶など)。食事が自己摂取出来ない入居者には介助を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいを行い就寝前は義歯を洗浄し管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけや誘導をして、自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動や散歩を心掛けると共に水分補給に注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望・体調に合わせて入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて声かけし、居室で休んで頂いたり、ソファで休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示にて内服の説明書の理解と服薬が確実に出来る様支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を唄ったり、塗り絵をしたり、テレビ・ビデオを観たり、月に一度の行事に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の様子で散歩、または日光浴をしている。年間行事に基づいて実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は事務所金庫で預かっており、本人が買い物をした時は一緒に出かけ支払をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	色々な行事のお便りを家族に送ったり、希望のある方は入居者自ら電話する。(職員見守りにて)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に掃除をしたり、常に清潔を保つようにしている。外と室内の温度差にも気を配り、花等飾り季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを観ている人、ソファーに座り休んでいる人、話をしている人、それぞれに行動してもらい安全を見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・カレンダーなど作った物を飾り付け、居室の清掃や温度調節もその都度確認している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の様子が視野から離れないように全体を見渡しながらか支援している。施設内の障害物は片づけ、手すりを使い行動出来るよう安全性を考えている。		